

先生方の悩みや疑問に、先輩担当者からアドバイス！

Q 1 一人学級の児童は、考えを深めることが難しい。

- A 1
- ・教師が子ども役をするなどして一緒に考える場を設けています。
 - ・低学年の場合は、「キャラクター」を作り、反対意見を提案すると反応がいいですよ。
 - ・他校と交流学习を行っている場合は、意見交換の場面や話し合い活動を取り入れた授業を計画しましょう。

Q 2 間接指導が計画どおりにいかない。

- A 2
- ・授業の最初に学習の流れをきちんと確認させることが大切です。
 - ・ミニ黒板に学習の流れを書いて、いつでも見られるようにしています。
 - ・リーダー学習に慣れさせると、自分たちで考えを深めていくようになります。
 - ・特に国語科や算数科は、授業の流れをパターン化し、自力学習できるクラス・児童を育てていくことが大切です。
 - ・復習から入る学年の問題量と難度に気を付け、10分以内で解決できる程度にしています。
 - ・早く終わった児童には補充問題を用意しておくといいです。答えも用意し自分で確認させます。さらに、早く終わった児童同士で間違いについて話し合いをする場をもたせるようにするとよいでしょう。
 - ・タイマーを利用し、時間制限を子どもにも教師自身にも課すようにし、計画から大幅に外れることのないようにしています。
 - ・学習の手順を提示したワークシートになるよう工夫することが大切です。

Q 3 初めての複式学級の形態に児童が戸惑い、学習が進まない。

- A 3
- ・黒板の置き方は、L字か前後がよいと思います。
 - ・何ごとも初めが肝心です。授業のルールを年度当初にしっかりと身に付けさせましょう。

Q 4 理科の授業で「観察」や「実験」の単元に困った。

- A 4
- ・単元をずらし、観察や実験が重ならないようにしています。
 - ・NHKのデジタル教材などICTを活用しています。特に、間接指導に生かしています。
 - ・県総合教育センターの「理科教育メールマガジン」を利用すると便利ですよ。
 - ・科学技術振興機構の「理科ねっとわーく」もあります。参考にしてみてください。

Q 5 習っている漢字が違うので、板書の時に気を遣う。

- A 5
- ・読めることはよいことなので、上学年の習っている漢字は気にせず使い、下学年にはルビをふるなどして対応しています。

Q 6 5年生が自然の家、6年生が修学旅行の時など、他方の学年の指導をどうしているのか。

- A 6
- ・多人数学校との交流をしている場合は、時期を合わせて交流学习を実施することで自習ばかりでなくなります。(進度を合わせておくとよいです)
 - ・プリント等の自習ではなく、学習課題を示しておき、自分たちで学習を進めさせると授業の予習になり、その後の授業をスムーズに進めることができます。

Q 7 教材研究、授業研究が大変である。

- A 7
- ・自作教材を共有できるよう、ストックしたり、データ化したりすることが学校単位でできるような体制を整えましょう。
 - ・最初はみんな同じ思いです。徐々に要領よくできるようになります。1年が経ってみれば、良い勉強になったと思えるし、自信にもなりますからお互いががんばりましょう。